



特集 国際貢献・協力セミナー 渡部 陽一氏講演会	P 2
事業報告 Festivals with Dancelほか	P 3～5
外国人エッセイ 私の何でも自慢 周 星星さん	P 6
Worldなんしよん Now?～岡山人からの便り～ 真加部 麻実さん(マレーシア)	P 7
ボランティア活動しています! 伊藤 正志さん(通訳・翻訳ボランティア)	P 8
作ってみよう!世界のレシピ キンバ(韓国海苔巻き)	P 8
JICA寄稿 JICA研修員	P 9
国際貢献NGOフェア	P 9
イベントカレンダー ボランティア交流会ほか	P 10

おかやま 国際交流



令和6年度「国際貢献・協力セミナー」渡部 陽一氏講演会
「戦場からのメッセージをあなたに～ファインダー越しに見た命の現場～」

講 師:戦場カメラマン、フォトジャーナリスト 渡部 陽一氏
共 催:岡山発国際貢献推進協議会
後 援:特定非営利活動法人 岡山県国際団体協議会、JICA中国

令和6年10月6日(日) ←

「戦場からのメッセージをあなたに ~ファインダー越しに見た命の現場~」

講師：戦場カメラマン、フォトジャーナリスト 渡部 陽一氏

令和6年10月6日(日)

県民の国際貢献に対する理解を深め、国際貢献活動への参加を促進することを目的として「国際貢献・協力セミナー」を開催し、戦場で取材活動が続ける渡部氏の話を聞こうと、約150名の参加者が集まりました。独特の語り口で話題となり、数多くのテレビ番組等で活躍している戦場カメラマンでフォトジャーナリストの渡部氏。戦地取材で撮影された衝撃的な映像が上映された後、さっそうと登場した渡部氏に大きな拍手が送られました。

講演では、戦場カメラマンを志したきっかけや、「ロシアによるウクライナ侵攻」や「ガザ紛争」などの背景、そしてメディアでは報道されない戦地の現状を、ジェスチャーを交えながら力強く語りました。

また、渡部氏が戦地で撮影した劣化ウラン弾の影響で障害を持って生まれてきた子どもたちの写真も映し出され、「戦争で犠牲になるのはいつも子どもたちだ」と戦争の悲惨さを強調しました。

戦争の現実を世界に伝えるために戦場カメラマンとなり、「平和のために私たちができるのは、まずは世界を知ることだ」と語る渡部氏の言葉に、参加者にとって世界平和について深く考える一日となりました。

渡部さんの写真に感動しました。渡部さんのように真実を伝えてくれるジャーナリストが必要だと思いました。
(50代、男性)

日本にいる私たちに何ができるだろうと考えさせられました。
(40代、女性)

自分が経験できない生の話を拝聴でき、ただただ興奮しました。
(30代、男性)

渡部さんの熱い語りに心を打たれました。
(60代、女性)

教科書でしか知らない出来事を現実の話として知ることができました。
(10代、女性)

渡部さんの温かい人間性が今日のお話から読み取れて、ありがたい時間でした。
(70代、女性)

今回学んだことで、ニュースやメディアの捉え方、感じ方に変化が生まれそうだと強く思いました。
(20代、女性)

渡部さんの全力の講演に感動!!
(40代、女性)

全身全霊で戦場や子どもたちの様子を伝えてくださり、大変良かったです。
(40代、女性)

我々の知らないことが多すぎる。渡部さんのお話を聞いて世界観が変わった!!
(70代、男性)

いかなる理由でも、人が亡くなることだけは防ぎたいです。
(60代、女性)

笑顔を絶やすことなく語りかけていたのが印象的でした。つらい経験を乗り越えてきたからこそ笑顔になれるのだと感じました。
(50代、男性)



令和6年度コンシェルジュによる楽しい居場所づくり事業 「Festivals with Dance ～仏か鬼か幽霊か～」

令和6年8月18日(日)

「世界の祭り」をテーマに、協会のコンシェルジュが企画・運営を担当しました。参加者は総勢40名。今回は中国系のお盆「中元節」、スリランカの「ペリヘラ祭り」、桃太郎伝説から生まれた「うらじゃ祭り」を取り上げ、それぞれの歴史やお祭りの様子を動画や画像で楽しみました。

①中元節：ベトナム、マレーシアなどには、「中元節」の文化があります。8月の1か月間、地獄の扉が開き、飢えた先祖たちが冥界から解放され、人間たちの間をさまよいながら「食べ物」を探す、と言われています。食べ物、線香、ろうそく、お金、衣服を準備して、先祖たちを迎えます。

②ペリヘラ祭り：スリランカ・キャンディ※で行われ、仏歯寺に祭られている仏陀の歯に敬意を表し、豊かな収穫を願います。音楽隊やダンサー、象の行列がパレードのように町を歩き回るお祭りです。

③うらじゃ祭り：桃太郎伝説に由来する岡山「うらじゃ祭り」。参加者とスタッフの皆で、「うらじゃ」の踊りを体験しました！

※スリランカ中央部の州都で、シンハラ人王朝の古都



参加者全員で



奇しくもイベント開催日は、岡山のうらじゃ当日でした



迫力のあるペリヘラ祭りダンス

「ゲームで楽しく国際交流！英会話にもLET'S チャレンジ！」 〈図書資料室でのイベント〉

令和6年8月31日(土)

ボードゲームの体験会を開催しました。14名の参加者はチームに分かれて、英語圏出身のスタッフとの英会話も楽しみながら、2つのゲームに挑戦しました。

初めのゲームは「みんなで本をもちよって」。カードに書かれている質問の答えになるようなフレーズを本の中から見つけて発表し合います。制限時間内に見つけ出すスリルと、ユニークな答えに出合う面白さを味わいました。

次に「ヤッツイー」というカナダのゲームを体験。5個のさいころを振って決められた役をつくります。高得点をねらって相談したり、歓声があがったり、和気あいあいと盛り上がりました。

参加者から「初めは緊張したが、ゲームを通してリラックスして英会話ができた」「初めての外国のゲームはとても面白かった」「チームで話せて楽しかった」「時間が足りなかった」などの声が寄せられました。



本の中から答えを発表する参加者



ヤッツイーを楽しむ参加者

海外マガジン・書籍の無料配布
11月9日(土)～23日(土)

図書資料室では、保存期間を過ぎた海外の雑誌や除籍済みの書籍計148冊を46人の希望者に差し上げました。

英語で話そう-Let's Speak English-

令和6年9月14日(土)

講師:岡山県国際交流員 カラン・スタークさん、タイラー・ゲルガードさん

協会会員を対象に、生きた英語に触れるイベント「英語で話そう-Let's Speak English-」を開催しました。26名の参加者は、講師やアフガニスタン、イギリス、オーストラリア、ハワイ、バングラデシュ、米国など様々な国出身の英語ボランティアと一緒に、ゲームやグループトークを通して英語で交流を楽しみました。

はじめに、アイスブレイクとして“Interview Game (インタビューゲーム)”を行いました。「楽器が弾ける人」「猫が好きな人」など指定された人物を、会場にいる人にインタビューしながら探すゲームです。初対面同士でも会話が弾み、和やかな雰囲気ではスタートしました。



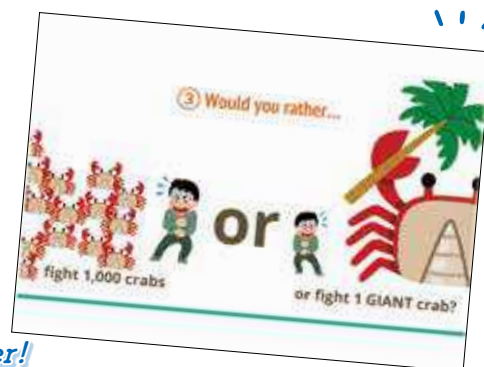
講師のカランさん(左)とタイラーさん(右)



グループトークで盛り上がる参加者

グループに分かれて行った“Desert Island (無人島ゲーム)”では「もし無人島に行くなら何をもっていく?」をテーマに、想像力を働かせながらアイデアを述べ合いました。

続いて行った“Would You Rather (あなたはどちら?)”では、「お金持ち or 真実の愛」「1000匹のカニと戦うか or 1匹の大きなカニと戦うか」などのお題について、2つの選択肢の内、自分ならどちらを選択するのかを話し合



ました。参加者の考えや価値観が垣間見え、大変な盛り上がりを見せました。

途中にはスナックをつまみながらのフリートークの時間もあり、老若男女、英語を存分に楽しんだ笑顔あふれる時間となりました。

Please continue to study English and let's have fun together!

(これからも英語の勉強を続けて、一緒に楽しい時間を過ごしましょう!)



“Interview Game (インタビューゲーム)”の様子



講師と英語ボランティアの皆さん

英会話
カフェ
(月1回開催)

英語のネイティブスピーカーと楽しくおしゃべりしませんか?
英語に興味がある方や国際交流に興味がある方、大歓迎です!
中学生~社会人の方、気軽にご参加ください!!
(英会話のレベル・国籍は問いません(^^) /)



テーブルごとにネイティブを囲み、会話を楽しむ様子

「やさしい日本語研修会」「にほんご勉強会」&交流会

共催：赤磐市

令和6年9月15日(日)

やさしい日本語研修会講師：学校法人アジアの風 岡山外語学院 佐藤 恭子氏

にほんご勉強会講師：(一財)岡山県国際交流協会

地域日本語教育総括コーディネーター 小川 京子氏

今年度、初めて岡山国際交流センターを飛び出し、赤磐市と共催で「やさしい日本語研修会」「にほんご勉強会」&交流会を赤磐市立中央図書館で開催しました。

「やさしい日本語研修会」には38名が参加し、講師の佐藤氏からやさしい日本語の基礎や法則を学び、実践的なワークショップを通じて、具体的な表現方法やコミュニケーションのコツを身につけました。

また「にほんご勉強会」には7名が参加し、ゲームを通じて日常生活に必要な日本語を学びました。参加者たちの、楽しそうに笑顔で日本語を学ぶ姿が印象的でした。

最後に「やさしい日本語研修会」の参加者と「にほんご勉強会」の



にほんごの勉強中

参加者が、やさしい日本語を使って交流をしました。言語の壁を越えた交流ができたことは

大きな成果であり、やさしい日本語や日本語学習の機会を提供することの重要性を改めて感じた研修会になりました。参加者からは「相手のことを思い、わかりやすく、親かな言葉を使う必要性を感じた」などの声が寄せられました。



日本語の特徴を勉強中



佐藤氏

子ども日本語学習サポーター研修会

令和6年9月21日(土)

講師：公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)所属日本語教師 竹歳 三千子氏

ハイブリッド形式で開催した今年度の研修会には、子ども日本語学習サポーター登録者及び新規登録希望者41名(オンライン16名、対面25名)が参加しました。講師の竹歳氏の講義とグループワークを通して、子どもへの日本語学習支援の基礎と来日間もない子どもへの具体的な支援方法を学びました。

竹歳氏は、子どもの心身の発達段階や学年の特徴を生かした支援があり、飽きさせない授業の工夫や楽しく学べるのが大切だと話しました。歌のリズムにあわせて五十音や単語を覚えたり、カードやものを使って体を動かしながら学習したりするなど、講師の実演をもとに参加者は具体的な支援方法のイメージをつかみました。

参加者の交流時間には、活動中のサポーターから工夫していることや活動の悩みなどを



グループで話し合った内容を発表



学校の教科書を使った指導案を考え中



ことばで説明するだけでなく、体を使って教える

話してもらいました。活動は一人で行うため、サポーター仲間存在に勇気づけられたという声や、登録希望者からは活動の不安が少し解消できたという感想が寄せられました。

※子ども日本語学習サポーターとは、申請のあった学校に出向き、放課後に外国にルーツを持つ児童生徒の日本語学習を支援するボランティアです。

外国人エッセイ

私の何でも 自慢

しゅう せいせい
周 星星さん

ちゅうごく かほくしやうけいだい ししゅうしん
(中国 河北省邢台市出身)

にほんたいざいれき やく ねん
●日本滞在歴:約6年

こんしゅう おかやまだいがく しやかいぶん か がくけんきゅう か
今秋、岡山大学 社会文化科学研究科
だいがくいん はくし かてい しゅうりやう しゅうせいせい
大学院の博士課程を修了した周星星さん
こきやう おも で おかやま せいかつ
に故郷の思い出と岡山での生活について
うかが
伺いました。



出身地について

かほくしやう ちゅうごく かほくへいげん おお しやう わたし こ
河北省は、中国の華北平原にある大きな省です。私の故
郷は河北省の南にある、見る限り平原の町です。

この地域は農業が盛んで、農作物は年に2回収穫されます。
5月末頃には小麦、9月末頃にはトウモロコシの収穫期を迎
えます。両親も農業を営んでおり、私も幼い頃から両親に連
れられて畑で遊んでいました。中高生の頃は、近年ほど農業
の機械化が進んでいなかったのも、小麦に水やりをしたり、
熟したトウモロコシの皮を剥いだりしていました。高校生ま
で、地元から離れることがあまりなかったので、故郷の畑に
対してとても深い思い出があります。



故郷のトウモロコシ畑

故郷の観光地について

故郷の有名な観光地は、安済橋(別呼称名:趙州橋、大
石橋)です。安済橋は、河北省石家荘市趙県に位置し、隋の
時代に李春によって建築された1400年以上の歴史を持つ
中国現存最古の石造りのアーチ橋です。独特の橋梁技術で
建築されているため技術的価値が高く、また欄干には精巧
な彫刻が施されているなど芸術的価値もあります。

1984年まではバスやトラックなどが通行していましたが、
現在は趙州橋公園として保存されています。1961年に中国
の全国重点文物保护单位(※)に指定されました。

※別称、国家級の文物保护单位であり、中国の文物保護法の規定により指
定された中国文物の最高保護クラス。



安済橋

日本での生活について

大学での勉強・研究活動の合間には、大学近くのスー
パーマーケットでアルバイトをしていました。お客さまと話す
機会が多くあり、仲良くしてもらっていました。

中国にいる親友には、岡山県の魅力として「地震が少な
く、夏はぶどうがおいしく、晴れの日が多く、住みやすい地
域」だと発信しています。

休みには、よく県外へ旅行に出かけます。昨年は、友達と
一緒に京都へ紅葉を見に行きました。紅葉によって山野が色
とりどりに染まった景色はとても美しく、スマートフォンでたく
さん写真を撮りました。

いつか両親を連れて日本の紅葉名所を訪れたいと思っ
ています。



清水寺で写した紅葉

World なんしょん Now?

おかやまじん たよ
～岡山人からの便り～

日本から飛行機でおよそ7時間。ご主人の海外赴任をきっかけにマレーシアで新生活を始めた麻実さん。協会のイベントでは、ヨガのインストラクターを務めた、明るく活動的な麻実さんからの近況です。

よが いんすたらくたー まかべ まみ
ヨガインストラクター 真加部 麻実さん



近所にOPENした果物屋さんにて

家のお隣さんは中華系、向かいはいンド系、少し歩くとマレー系。さまざまな人種が1つの国に住む多民族国家、マレーシアに住み始めて半年が経つ。

年中平均気温は27度と一定なので、季節の移り変わりを感ずることもなく、もう2024年も終わりに近づいている。マレーシアに住んで半年、時間がこんなにも早く感じられたのは初めてだろう。

私は首都のクアラルンプールから1時間半ほど離れた場所に住んでいるが、岡山育ちで自然や田舎が大好きな私が心地よさを感じるくらい、緑も豊かでゆったりした街だ。反面、道路は綺麗に整備され、新しい住宅がたちならび、インターナショナルスクールも開校し、次々お店もオープンするなど開発も進んでおり、活気のある町でもある。

高校まで地元の岡山で育ち、東京、大阪での暮らしを経て27歳で再び岡山に戻った私は、瀬戸内海の家や空、自然豊かな岡山がさらに大好きになった。こんなに最高の場所が地元なんて、いつも思っていた。

マレーシアに引っ越してきて、夕陽が綺麗に見える場所を探したり、近所を散歩しお気に入りのルートを見つけ自然の景色を楽しむなど、心地よさを日常に探しながら日々を過ごしているのは岡山での過ごし方とそっくりかもしれない。どうも、異国で生活していても私の根



とある日のマジックアワー



大自然に囲まれたヨガで心身を整える



見慣れないけど
甘くておいしい♪

心身を整えることから1日が始まる。

マレーシアでは南国のフルーツが豊富なので、バナナ、パパイヤ、マンゴー、ドラゴンフルーツなどなど、スーパーに行ったら新鮮なフルーツを調達しキッチンにストックするのが私の楽しみだ。

岡山のフルーツが恋しくなりながらも、夫婦で見たことのないフルーツを食べてみては、そのおいしさに感動するといふうちに暮らしそのものを楽しんでいる。こうした何気ない日常に楽しみや心地よさを見つけるのは母の姿から学んだことだ。昔はなんだか地味だなと思っていても、異国の地でさまざまな文化の違いを感じる中で、日頃の小さな幸せの積み重ねがとても貴重なのだと感じている。

マレーシアは言語も多種多様である。中国語、英語、マレー語、それ以外にも韓国語、タミル語、ヒンディー語など、いろんな言語が飛び交う。信仰や、お正月、お祝い事も人種によって異なるので、お互いを認め合う文化があるように思う。人々も気さくでフレンドリーなので、のびのびと暮らせている。ルールやマナーも日本に比べると緩いが、そこはご愛嬌。日本人としての誇りは持ちつつも、現地を尊重し、現地から学ぶ姿勢を忘れず、さらにマレーシアを好きになりたい。

さあ、今日はどんな楽しみを見つけられるかな？



近所のモスク



ボランティア活動しています！

つうやく ほんやく ぼらん てい あ
通訳・翻訳ボランティア
いとう まさし
伊藤 正志さん

「通訳・翻訳をつうじて伝えたい日本の文化」

私は、20代後半に仕事でアメリカ東海岸に赴任し、約5年滞在しました。最初は、仕事や生活面で戸惑い、時に失敗もしました。幸いにも、親切的な現地の同僚やアメリカ在住の日本人のアドバイスで徐々に日々の生活をエンジョイできるようになりました。そこから、逆に日本の文化に興味を持つようになり、帰国後は日本らしい風情のある場所を訪ね、写真を撮っています。また、最近は伝統工芸の備前焼にも挑戦しています。



ボランティア活動中、講師たちと



先日、ホームステイのホストファミリー向け英会話研修

太宰府天満宮にて

にサポーターとして参加し、多くのお子さんがいるのを見て感心しました。小さい頃から異文化に触れる機会を得て、きっと日本と各国の文化を理解し、尊重する人になってくれると期待しています。

AIの発達、訪日外国人の増加などの社会環境の変化の中で、通訳・翻訳のボランティアをつうじて、背景にある文化についても触れられるようなサポートをしたいと思います。

作ってみよう！ 世界のレシピ

キンパ

キンパは、のりでごはんを巻いて作る韓国料理で、キムは「のり」、パプは「ごはん」という意味で、合わせてキンパといいます。日本の巻き寿司とは違ってキンパは酢飯を使わず、ごま油と塩で味付けをし、野菜とハム、たくあんなどを入れるのが特徴です。昔は遠足や運動会の時に欠かせない料理でした。

レシピ紹介者：金 允姫 氏



材料 (2本分)

ご飯……茶碗1.5杯ほど
のり(焼のり/寿司用)
……………全形2枚
A:ごま油……………大さじ1
炒り白ごま……………大さじ1
塩……………小さじ1

具材

かにかま……短いの6本
(長いの2本)
きゅうり……………1本
*ほうれん草1/4束をゆでて利用可

たくあん……………30g
焼き豚ハム……………50g
*サンドイッチ用のハム可
にんじん……………1個
卵……………1個
サラダ油……………適量
塩(卵と人参の味付け用)
……………お好みで



作り方

① 材料を準備する

1. 温かいごはん、Aを混ぜ込み、少し冷ましておく。
2. かにかまは、軽く炒め、冷ました後ほぐす。
3. たくあんは、細切りし冷たい水で2〜3回洗い軽く搾しておく。
4. きゅうりは、細切りし水気を取る。
5. ハムは、細切りし軽く炒める。
6. にんじんは、細切りし塩で軽く炒める。
7. 卵を割りほぐして塩を少々加え薄焼きにし、少し冷ましてから細切りにする。

② 巻く

1. まな板の上にのりを置き、味付けをしたごはんを薄く広げる。
2. 写真のように手前から2cmぐらいのところから具を載せていく。
*細切りではない場合バラバラしたものは下へ、しっかりしたものは上へ積むと、まとまりやすい。
3. 巻き終わりを下にしてごま油をぬり、白ごまをかける。



1.5cm幅ぐらいに切って、パクパクつまんで召し上がれ。



JICA 寄稿

同じケニア出身の
研修員と(本人左)



シシリア メサ

Cicilia mesaさん(岡山大学環境生命科学研究科・博士課程/ケニア出身)

●ごあいさつ

2023年の秋に日本に来ることになった時、家族と離れることを少し寂しく思いました。しかし、日本で学ぶことへの期待が大きくなり日本へ来ることを決めました。到着してからは日本の「時間を守る文化」、「物事を正確に進める姿勢」、そして「温かいおもてなし」に感動しました。すべてが計画されており、スムーズに生活に慣れることができました。

●学んでいること

私の専門は「エネルギー」です。ケニアでは工業研究所で働いていました。日本では、企業と大学が協力して研究開発を進めることや、脱炭素社会を目指す取り組みについて学んでいます。大学では実習や、シミュレーションソフトを使うことで、実際に使うことができるスキルを身につけることができます。また、日本語クラス

もあるので少しずつ日本語を話せるようになり、地域の方々との交流も楽しくなってきました。

●岡山での暮らし

岡山は多文化が共存する街で世界中から来た人々と出会い、さまざまな文化を学べます。街は安全で清潔で、地元の人々は親切です。これまで山形、広島、東京を訪れ、それぞれの土地で寿司や牛丼、お好み焼きなど日本の食文化も楽しみました。今後も日本各地を訪れ、多くの文化や風景を体験してみたいと思っています。

2024年10月現在、岡山県内には7名の長期研修員がいます。それぞれが環境、農業、医療などの分野で学んでいます。彼らは、日本と母国との国際協力を進めるための大切な存在です。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

国際協力に関するご相談は岡山県JICAデスク(橋本)まで。

E-mail : jicadpd-desk-okayamaken@jica.go.jp / 電話 : 080-2934-8497

Facebook : <https://www.facebook.com/jica.okayama>



国際貢献NGOフェア

令和6年10月1日(火)～令和6年10月31日(木)

共催: 特定非営利活動法人 岡山県国際団体協議会

10月の「おかやま国際貢献月間」に、県民の国際貢献に対する理解を深め国際貢献活動への参加を促進するため、国際貢献に取り組む県内NGOなど9団体の活動をまとめたパネルや写真、パンフレットなどを展示しました。

岡山県国際団体協議会は、昨年、6か国の大使館関係者等を集め開催した多文化共生のまちづくりに関するシンポジウムの様子を紹介。岡山県JICAデスクは、青年海外協力隊のモンゴルでのゲルハウス(ゲルと呼

ばれる移動式住居に泊まるゲストハウス)での支援や、マダガスカルでの小学校教育といった活動を取り上げました。多文化共生社会の推進に取り組むダフェプロジェクトは、9月27日から続いた豪雨により大洪水に見舞われたネパールへの緊急復興支援を呼びかけました。



2月

ボランティア交流会

ボランティア同士の交流を通してボランティア活動への理解を深めます。

- と き 令和7年2月8日(土) 10:30~12:00
- 対 象 ①当協会ボランティア登録者(新規登録希望者も可)
②ボランティア活動に関心のある方
- 参加費 無料
- 定 員 30名(要申込み、先着順)
- 申込み 企画情報課(令和7年1月受付開始予定)

災害救援専門ボランティア(通訳・翻訳)研修会

災害時に通訳・翻訳で外国人を支援するための知識を身につけます。

- と き 令和7年2月22日(土) 10:00~13:30
(10:00~12:30研修・12:30~13:30非常食体験)
- 対 象 ①岡山県災害救援専門ボランティア(通訳・翻訳)登録者
②外国語通訳・翻訳の知識及び経験を有する方で、災害時の外国人支援に関心のある方
- 参加費 無料
- 定 員 60名(要申込み、先着順)
- 共 催 岡山県、岡山市、倉敷市(予定)
- 問合せ 企画情報課(令和7年1月受付開始予定)

多文化共生コミュニケーションサポーター研修会

学校や行政機関の窓口等で外国人のサポートをする通訳ボランティアに必要な知識や心構えについて学びます。

- と き 令和7年2月22日(土) 13:30~16:00
- 対 象 岡山県国際交流協会の「多文化共生コミュニケーションサポーター」制度の登録者及び新規に登録を希望する方。
※日本語とその他の言語で円滑に意思疎通ができる方
- 参加費 無料
- 定 員 60名(要申込み、先着順)
- 申込み 企画情報課(令和7年1月受付開始予定)

※上記2つの研修は、両方合わせて受講いただけます。

会報誌アンケートのお願い

今後の参考にさせていただくため、ご協力をお願いします。

「柚木沙弥郎 永遠のいま」(県立美術館開催)ペアチケットを5名様にプレゼント!



令和7年1月12日(日)までにアンケートにご協力いただいた方の中から抽選で5名の方に、岡山県立美術館で開催される標記特別展「柚木沙弥郎 永遠のいま(会期:令和7年2月14日(金)~3月23日(日))」のペアチケットをお送りします。発表は発送をもって代えさせていただきます。

特別展「柚木沙弥郎 永遠のいま」 2025年2月14日(金)~3月23日(日)

柚木沙弥郎(1922-2024)は、倉敷市玉島の洋画家、柚木久太の次男です。戦後初期に大原美術館で民藝運動に出会い、芹沢銈介のもとで染色家として歩みました。型染の第一人者として活躍し、自由でユーモラスな形態と美しい色彩が調和した作品は、多くの人々に愛されています。1990年代以降は、染色のみならず、版画やコラージュ、絵本、立体など大きく創作世界を広げ、晩年まで意欲的に活動しました。本展は長きにわたる創作活動の全貌を紹介します。

柚木沙弥郎 《無題》 2012 岡山県立美術館蔵



ロビーのショーケース(展示)

メインロビーでは開催済みのイベントの実施報告や、開催予定のイベント・情報等を展示しています。(右写真は9月の展示)



会員募集

一般財団法人岡山県国際交流協会では会員を募集しています。

☆会員の特典

- 会報誌「おかやま国際交流」による国際交流情報の提供(年4回)
- メールマガジンの配信(月1回)
- 協会主催事業への参加費割引(団体会員は1団体2名までを割引)
- 入会時に記念品をプレゼント

☆年会費

個人会員: 2,000円 団体会員: 10,000円
賛助会員: 30,000円

☆申込み・問合せ 総務課まで

TEL:086-256-2000 ※9:00~17:30(月~土曜日)
E-mail: kokusai@opief.or.jp

最新情報は、当協会のホームページやFacebook、X(旧Twitter)等で随時お知らせします。



ホームページ



Facebook



X(旧Twitter)



Instagram

一般財団法人 岡山県国際交流協会 企画情報課

☎086-256-2914 (月~土 9:00~17:00)

総務課 ☎086-256-2000 (月~土 9:00~17:30)

会議室等の予約 受付管理班 ☎086-256-2905(9:00~17:30)

[休館日] 12月29日~1月3日及び臨時休館日(ただし日曜日は貸室業務以外休み)

■編集・発行

〒700-0026 岡山市北区奉還町2-2-1
岡山国際交流センター内 一般財団法人 岡山県国際交流協会
☎086-256-2000(月~土 9:00~17:30)
☎086-256-2226

ホームページ: <http://www.opief.or.jp>

Facebook: <https://www.facebook.com/coolopief/>

X(旧Twitter): https://twitter.com/opief_okayama

Instagram: https://www.instagram.com/opief_okayama/

E-mail: kokusai@opief.or.jp